

チェアマンより

西森 典子

みなさん、こんにちは。朝晩が涼しくなり、日差しの中でも空気に秋を感じられるこの頃です。きっと皆さまは気持ちよくダンスを楽しんでいらっしゃることでしょう。私は暑さのせいにして怠けていた気持ちと体へ、きりっと引き締めて、と言い聞かせる毎日です。

新メンバーでの委員会が6月にスタートしてあっという間にもう4カ月近くになりました。それぞれの担当する仕事は何か少し見えてきたかな？というところです。発足早々の委員欠員の件はニュースでお伝えしましたように、前委員の細海氏がゼネラル・クラス担当となり、ほっといたしました。

また永らく委員会会場として利用してきた秋葉原のロイヤル・ホストからゼネラル・クラスが行われる童夢館の図工室とか家庭科室を安く借りられることが分かり、まわりを気にせずに落ち着いてできるようになりました。

東京ブランチャに新しいお仲間が入会されました。年会報の名簿欄で追加済みの嶋 しづ子さんの他に、日影 文雄さん、中台 美恵子さん、澤口 真由美さん、玉田 淑子さんです。ということで会員数は総会時の306名から311名となりました。みなさんのまわりで東京ブランチャにご興味ある方いらっしゃいましたら途中入会も受け付けていますので、どうぞお誘いください。新入会員には本部からニュー・パックというお楽しみプレゼントが送られてきます。

9月27日ー28日ドイツのケルン・グループのWeekendが開催され、その40周年ボールで東京ブランチャ会員の青山るりさんがDr. Keith Smithと共演、ピアニストとして海外デビューされました。

次回のレターで皆さまに体験・報告記をご紹介します予定です。
なおSCD You TubeからThe Four Minute Reelで検索されるとダンス・演奏シーンをご覧になれます。



Book48 講習会のご報告

先月9月21日お天気に恵まれたさわやかな午後、サマースクールに参加された鳥山豊喜さん、小山かおるさんを講師にお迎えしBook48の講習会が駒込地域活動センターで開かれました。会員、会員以外の

方も含めて、うれしいことに 100 名を越えるかたが参加されて、セット間のスペースが窮屈な中、熱心に受けられていました。

今年のブックのダンスは曲数が多くて、全部していただくのは無理な状態でありながら、出来るだけたくさん伝えていただきたいとのリクエストに応じていただき、講師のお二人には本当に感謝しております。

また、会場が開くとすぐに参加のみなさま方、椅子を出して準備、終了後も片付けを素早くお手伝いくださいました。時間に追われていて、その場できちんとご挨拶もできませんでしたが、どうもありがとうございました。会場確保とかいろいろ表に見えないところでも、サポートしてくださる方々がいらっしゃるおかげで、新委員での初イベント無事行うことができました。これからもよろしく願いいたします。

鳥山さん指導曲

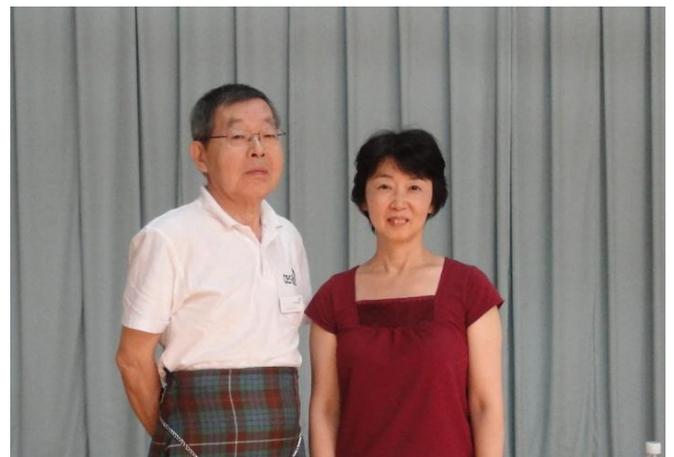
Newburgh Jig (J.32 3C)

The Golden Years (S.32 3C)

Sunshine and Sweetie's Jig (J.32 3C)

Rye Twist (R.32 5C)

Monica's Way (J.32 4C)



小山さん指導曲

The Festival Man (J.32 3C)

Rougemont Castle (S.32 3C)

Lady In Red (J.32 5C)

Farewell To Helensburgh (S.32 3C)

Macleod's Wedding (R.48 5C)

The Fireworks Reel (R.32 3C)

運営委員会報告

2014年7月6日

1. ブランチレター98号について

・掲載内容は委員の写真と担当紹介、一言挨拶、Weekend アンケートまとめ、委員会報告、クラスダンス曲名（以上3件は前委員からの引き継ぎもふくむ）、海外情報、会員からの投稿、ショ

ップ関係で8月発送予定とする。

2. 年会報 No. 3 1

・レターと同時発送できるよう原稿を各担当が準備して編集作業する。

3. Book48 講習会

・会場抽選結果：9月21日（日）13時～17時、

文京区駒込地域活動センターA B多目的室にて行う。

・講師：鳥山さん、小山さん承諾。前半鳥山さん8曲、後半小山さん7曲で持ち時間およそ1時間30分とする。講師にCD持参してもらうよう依頼する。

4. Weekend 2015

・日時・会場候補地検討：房総か熱海方面かと議論、上野からのバス送迎のある熱海を問い合わせる。人数による宿泊費の差があるか？ピアノの有無、ホール使用の時間、バスの時間等について。講師は篤子さんという案が出たので、日程を打診することに。

・2泊3日は長いという声もあるため1泊2日で検討。

5. その他

・ショップ関係：Book48講習会に間に合わせたいので7月31日締め切りで注文受け付ける。

・30周年誌について：前委員間で検討中の30周年誌時間切れで任期中にできなかったが、No1から会報はNo30, レターはNo97までをPDF形式でCD-ROMに清水さんが作成されたので、希望者に実費プラス送料で頒布することにした。

6. 本部関係

・新会員用のnew packを本部に人数連絡, 到着次第、送付する。メンバー情報の修正も依頼済み

2014年8月2日

1. Book48講習会

・時間配分：曲数が多いので早くスタートして13:00~14:45 鳥山さん / 14:50~16:35 小山さんとする。受付・進行・会場・音響などの担当決める。ダイアグラム：前日午前中までにBook間に合わない時は配布。

2. Weekend 2015

・会場候補ホテルについての報告 熱海案はよくなかったなので、再度、箱根高原ホテル/ホテルジャーニーイーロード/大江戸温泉日光霧降高

原に問い合わせる。

(確認事項として100名宿泊可能か、宿泊費、ホール使用料及び夜間の最終時間、ピアノの有無)

・講師候補の篤子さん5月中旬までなら可能ということで5月9-10日 1泊2日で確認をすることに。

3. New Year Dance

・会場は駒込地域活動センター、10月抽選月、細海委員、佐藤委員、会員協力者の嶋さんの3人で行く。

第一希望1月12日(月) 第二希望1月18日(日) 第3希望1月17日(土)。

4. 新マニュアル講習会について

埼玉ランチが10周年記念に招聘するヘレン・ラッセルにティーチャー対象で勉強会を依頼する企画に合同で参加したいと申し入れる。2015年11月30日(月) 予定している。

5. その他

・ショップ関係：レター98掲載分の締め切りは8月4日まで待ち集計後、発注する。

・Unit 1: 10月11日(土) 埼玉ランチ担当/東川浩子さん(東京)、赤松洋子さん(東海)が受験。

・今後の印刷物発刊スケジュール：10月発送予定でレターNo. 99作成する。サマースクール初参加の金田治子さん、Unit 2/3 受験の柳原友美さんに手記を依頼交渉する。

・ランチニュース確認：都連からチラシ発送依頼、レターとともに同封すること委員会で同意した。

2014年9月6日

1. Weekend 2015

・会場について

数か所当たった結果大江戸温泉日光霧降高原が妥当と言うことで決定。講師5月9-10日で篤子さん受諾。

2. Book48講習会

・ダイアグラムは50部だけでプリントして先着順無料配布とする。集合時間確認する。

3. New Year Dance

・会場予約方法確認した結果、3か月前の抽選のため希望順位を替えて早い日からにする。10月12日、17日、18日と取れるまで行くことになる。

・ダンス・プログラムは10月委員会で決定する。

4. 新マニュアル講習会について

埼玉 brunch が主催するヘレン・ラッセルの勉強会に合同で参加させてもらいたい旨、申し出ているが、まだ確約はもらっていない。

5. 三 brunch 会議

・東海埼玉で希望者がいて Unit 5 が8人にはなるので JEC を2014年11月3日に立ち上げることにした。各 brunch から2名ずつ委員を決めなければいけないので、候補者へ打診する。運営委員の中から一人出すことになる。

・マガジン和訳印刷一本化で経費節減できるか各 brunch が見積もり提出するが、体裁は変えたくなく、3種類でも併せれば安くできるところがあるか東海 brunch がもう一度調べる。一東京 brunch は今でも比較的安いので、無理にする必要性は感じられない。

・各 brunch のショップ価格の差について話合った。一会員がどこで買うか選べるので、他の赤字充填出来る財源として、結局従来通りで

少し利益が見込まれるやり方のままにしてみたいのではないかと、ということになる。

6. 本部関係

・第3回ティーチャーズ・カンファレンスが AGM 開催中に行われるお知らせが届く。

・2014AGM はクレメント篤子さん、Brian Harry に東京 brunch のデリゲイトとして出席していただく。

7. その他

・ショップ関係

鳥山さんからの新しい Book・CD 紹介の記事が届く。

・レター掲載記事依頼状況

会員からの寄稿はサマースクール参加の金田さん、サマースクールでユニット2・3受験の柳川さん、鳥山さんからのエンジンバラ・トラム乗車体験記が寄せられた。ロンドン・brunch のリールからの記事翻訳投稿があったが、紙面の関係で次回掲載を検討。

そのほか議事録、クラスダンスのまとめ、本部からのお知らせを掲載して10月半ばごろ発行予定。

・ホームページにグループ紹介を載せてもらってはどうか話し合う。

・年会報のティーチャーの欄で取得年度順に掲載してもらおうと、分かりやすいとの声がある。今後検討する。

brunch クラスで取り上げたダンス

1. ビギナーズ・クラス

7月14日 講師 渋谷 明美

1. Ways in New Hall R-32 BK-42

2. Birks of Invermay S-32 BK-16

7月28日 講師 渋谷 明美

1. The Highland Fair J-32 Gr.

-
2. Catch the Wind H-32 BK-45
 3. 12 Coates Crescent S-32 BK-40

8月11日 講師 渋谷 明美

1. Monymusk S-32 BK-11
2. Frisky J-32 BK-26
3. Catch the Wind H-32 BK-45

8月25日 講師 渋谷 明美

1. Miss Welsh's Reel J-32 Gr
2. Gramachie S-32 MMM
3. Mrs Macleod R-32 BK-6

9月8日 講師 渋谷 明美

1. Mrs Macleod R-32 Bk-6
2. Sugar Candy S-32 BK-26

9月22日 講師 渋谷 明美

1. Sugar Candy S-32 BK-26
2. Scott Micle R-32 BK-46

2. インターミディエイト・クラス

7月7日 講師 星野 薫

1. Mucklestane Moor S32 Hugh Foss
2. Broadford Bay R32 Leaflet
3. Sgurr Alasdair R32 Roy Goldring

8月4日 講師 境 雅子

1. Knot on a Ferryboat J32
2. Jennifer's Jig J32 John Drewry
3. Inverneil House R32 BK-35
4. Miss Florence Adams S32 BK-38
5. City of Belfast S32 BK-48
6. Westminster Reel R32 BK-45

9月1日 講師 長峯 真弓

1. Tap the Barrel R32 Third Graded BK
 2. Karin's Strathspey S32 Third Graded BK
 3. The Celebration Jig J32 Roy Goldring
 4. Rye Twist R32 BK-48
-

3. ゼネラル・クラス

6月7日 講師 鳥山 豊喜	ピ°7/	市川 洋子
1.The Torridon Cross	J48	J.Brenchley
2. From Scotia's Shores were Noo	S32	RSCDS Leaflet
3. Just as I was in the Morning	J40	BK-19
4. LucyCambell	R32	BK-17
5. Haugh's o'Cromdale	S16	BK-4
6. Montgomerie's Rant	R32	BK-10
7月5日 講師 若松 陽子	ピ°7/	市川 洋子
1.The Old Way of Killiecrankie	R48	RSCDS Leaflet
2.The Colonel	J40	RSCDS Leaflet
3.John Brown	S40	John Drewry
4.Never Look Back	R40	John Drewry
8月2日 講師 中田 多鶴子	ピ°7/	小海 弘子
1.On the Wings of the Morning	J32	Glasgow Assembly
2.The Alpine Strathspey	S32	The Tullich Collection
3.Fraser Cailean Donaldson`s Reel	R40	The Tullich Collection
4.The Spirit of the Dance	S32	TAC 50th Anniversary Collection
9月6日 講師 小山 かおる	ピ°7/	服部 雅芳
1.The Tirling Pin	J32	SCD. for Children & Teens
2.Wha'll be King but Charlie?	J32	Dances to Song Tunes
3.Out of Thin Air	S32	Graded BK-3
4.Mrs Stuart Linnell	R40	Imperial BK Vol.3
5.Somebody	S16	Dances to Song Tunes
6.Tap the Barrel	R32	Graded BK-3

会員からの声

今回も会員の方から興味深いお話が届いています。積極的に寄稿して下さった方、委員会からの依頼に快くお引き受けて下さった方、さまざまなかたちで協力していただけるのがうれしいです。

サマースクール2014に参加して

荒川SCDC 柳川ともみ (MOMO)

憧れと不安の思いを抱いてたどり着いたセントアンドリュース、サマースクール会場に着くとあ

ちこちから旧知の友との再会を喜ぶ声が聞こえる。私は初めての参加で何もかもにマゴマゴ。

でもレッスン会場を下見し、これから2週間自分の部屋となる場所で荷をほどき、ちょっぴり安堵。

初日の夜は歓迎レセプションで始まる。一人でポツンと立っていても誰かが声をかけてくれるしダンスに誘ってくれる。すると「名札に★がついている人は前へ」のアナウンス。それは初めて参加の印とか、こうやって【仲間】にしてくれるんだな～ welcomeの気持ちが伝わってきた。

月曜日から早速レッスン開始。UNIT2の受験生は13名、イギリス国内やヨーロッパの各地から、遠くはカナダからの参加者も。昨日の歓迎レセプションで一緒に踊った人も同じクラスだと分かる、楽しいクラスになりそう！日本からは2名が参加。

楽しくても受験という目的があるから、レッスンは気を引き締めて・・・短いサマースクール期間では、TUTORから何かを教わるというより「仕上げ」のアドバイスを受けるだけの時間しかない。サマースクールでの受験と言っても【日本で】何を学んでいるかを問われているのだと実感（試験前に2週間のレッスン時間があるUNIT5はまた状況が違うのかも知れませんが）。でも毎日の食事のメニューを考えなくてもよいし、買い出しも片付けも不要。掃除や洗濯だってやらなくてもよい、ダンスのことだけに集中できる素晴らしい環境。主婦にとって、サマースクールは天国。

金曜日の試験はあっという間にやってきた。試験が終わっての感想は、「もう一回やり直したい・・・」こう踊ればよかったと後悔ばかりが残ってしまった。でも過去を悔やむのではなく未来に向かって気持ちを切り替えよう、UNIT3の試験もあるのだから。え、前向きな性格だって？ 違うの、試験後のガーデンパーティで美味しいケーキが振る舞われたんで～

UNIT3の試験もあっという間にやってきた。ドキドキしながら順番を待つ控えの場所には、GOODLUCKのメッセージカードがたくさん届いている。UNIT3はすでに合格していてUNIT2だけ受けて帰国した仲間、昨年受験をした人、ティーチャーの方々、名前も顔も知らない人からも・・・日本の「お・も・て・な・し」以上の感動と力をもらえたサマースクールのhospitality！！

なのにUNIT3の試験後の感想は、「もう一回やり直したい」（全く成長なしの私・・・）ガーデンパーティのケーキ効果もなく後悔と反省で落ち込んでいたけど、ボランティアダンサーの方々から「とっても良かったよ」と言われ、

・・・最初はお世辞と思っていたけどあまりにも多くの人からそう言われるし、それも「well done(頑張ったね)」ではなく「good job(良いレッスンだったよ、楽しかった)」と何人にも何人にも声をかけられて、さすがに「これはお世辞じゃないな～」「結果はどうであれ、私のレッスンに喜んでもらえた」って思ったら嬉しくて嬉しくて、涙・涙（あのケーキはワサビ入りだったのかなあ？）

2週間のサマースクールは、あっという間だった。通いなれたレッスン会場も一緒に踊った仲間とも今日でお別れ。最期の土曜日はこれまた泣きながら踊っていた。

2週間本当に楽しく、日本では体験できない喜びや興奮の毎日でした。SCDが英国圏だけでなくいろいろな国で踊られていることを知り、たくさんの国の人と踊り、日本から参加していた多くの方々からは暖かいサポートや励ましをいただきました。この場を借りてお世話になった皆様にお礼を申し上げます。

セントアンドリュースは夏と言っても晴れた日でも18度ぐらい。帰国した日は熱帯夜に苦しみ

寝られませんでした。翌日、6週間後のはずの試験の結果が届きました。PASS 今度は興奮してまた寝られない夜・・・

2014年 サマースクール参加旅行

金田 治子

降ってわいた、スコットランド行き。

あっという間に、半年が過ぎ、いざ成田出発。 エディンバラ空港から エアーリンクというシャトルバスで市内に入ると、お馴染みの Waverley 駅。ロイヤルマイルを中心に、1日半ゆつくりと観光。途中、ここまでエディンバラの壁が側にあったというパブで、スコットランドではコココーラより販売量が多いという、アイロンブルーやビールで名物料理に舌つづみをうつ。夜は、スコティッシュダンスのショーを楽しむ。

翌朝から、グレンコー、ネス湖を通り、インバネスへ。Culloden の戦場では、シトシト雨が降り、寒く、40分で壊滅したというジャコバイト軍の兵士の気持ちを思いやる。マクベスの舞台となった、美しい庭園のコーダー城、パースを通り、ダンディーへ。車窓からハイランドの荒涼とした広野を眺めながら、Kingussie の駅名にハタと明日のサマースクールの現実に戻される。

University Hall は、公園やテニスコートの有る住宅街でした。受付で日程表、地図、担当ティーチャー一覧表の入った、ブルーのファイルをいただく。ティータイム後、St. Andrews の町探検に出かける。

8/4 (月) - 9 (土) 午前中は、クラスでしっかりレッスン。B k 4 8を中心に、G r . 3やインペリアルB k も含まれる。男性3名 女性17名 皆さん大きい、足が長い、だからステップも大きい、セットも広い！ 私は、いつも一生懸命ステップしていなければなりませんでしたが気持ちよかったです。とてもゆつたりと踊れます。ティーチャーは、Pat Houghton, Mervyn Short さん。日本でも、お目に お耳に掛かった方々なので一安心。

午後は、夜のパーティの為のウォークスルーのクラスに行ったり、ステップダンスで一汗 冷や汗をかいたり、買い物 散策自由です。夜はRSCDS主催のパーティやケイリーがありますが、やはり自由参加。私は、5 (火) St. Andrews Branch's Summer Danceに行きました。とても家庭的な雰囲気、3世代で参加している方もいらっしやいました。7 (木) 憧れのYounger Hall のパーティ、ホールは思ったほど広くありません。Mervyn Short さんの解りやすい、丁寧なMCですが、ウォークスルーはありません。でも楽しく踊れました。何故かステップダンスのデモに出ることになり、皆で踊れて良い思い出になりました。



9 (土) 最後の夕食を終えて、再びエディンバラへ。22:30開演のタツーを楽しみました。日没が遅いので、ショーを見るにはちょうど良い暗さになっていて、もちろん、防寒着はバッチリと。翌日は英国王室船のブリタニア号を見学。The Royal Yacht Britannia なんてダンスもありましたね。

夢のような2週間も瞬く間に過ぎ、暑さを全く忘れさせてくれたサマースクールとスコットランドに グッドバイ

エジンバラ・トラム乗車記

Tom Toriyama

ことしの5月末、当初計画の建設期間・建設費を大幅に超過してエジンバラに市営トラム（路面電車）が58年ぶりに復活した。わたしが乗車したのはヘイマーケットからエジンバラ空港間であるが、読者の利便を考え、エジンバラ空港からヘイマーケットに置き換えてご案内しよう。

エジンバラ空港のトラム停留所は空港出口の左にあり、TRAMSの標示にしたがえば間違いはない。停留所に屋根はあるけれど、見てくれ優先で実用的でなく、雨になれば風はつきもの、傘がなければ濡れになる。きっぷは停留所の自動販売機で買う。きっぷなしで乗ると「標準料金」と称し車掌に10ポンドとられる。

空港－市内	片道	5ポンド
同往復（復日はオープン）		8ポンド
空港以外の市内	片道	1.5ポンド
市内1日フリーきっぷ		3.5ポンド
（このほかにいろいろあり）		

余談であるが空港駅になるとベラボーナ割増し運賃になるのは京急・京成・名鉄・関空線に似ている（その点福岡空港はいい）。

自動販売機は5ペンス以上のコインまたはクレジットカード専用で、紙幣は使えない。スコットランドでは5ポンド、10ポンドといっても国立イングランド、(株)スコットランド、(株)ロイヤル・スコットランド、(株)クライズデールという4つの銀行の紙幣が通用していること、そして自販機を壊して金を盗る輩がいるからだろう。この自販機、いたれりつくせりの日本式とちがって単能機でつり銭は出てこない。クレジットカードの内蔵ICの向きがちがうと機能しないので、裏表・左右を試してみるとよい。どのきっぷが何枚ほしいか、画面指示にしたがって入力する。4ケタの暗証番号入力が必要。英国ではきっぷを買うのに

どんなに手間取っても、うしろに並んでいる人がいら立たしいそぶりを見せたり、文句をいったりすることは決してない。ゆっくり操作すればよい。それでも気が引けるのなら、お先にどうぞと手で示して順番を譲ればよい。バスも片道4ポンドで従来どおり運行しており、こちらはちゃんとつり銭をくれる。

きっぷを買って電車を待つ。待ち時間は最長15分とのことだが、市内中心部の混雑によってそうでないときもある。



トラム車内

スペイン製の電車は短胴の7両をつないで1編成にしてあり、低床式で2か所にラゲージ（米語ではバゲージ）置場がある。定員は156人で78人が座れる。静かで振動、揺れも小さく、乗り心地はよい。路盤がしっかりしているのだ。車内は予想したほど広くないが、昔の都電だってこれくらいだった。天井標示版につぎの停留所名が出るので、見ていれば間違えない。ブザ用のボタンは車内各所にあるが、すべての停留所に停まる。

空港を出ると2駅ばかり原野をとおり、南下して工業団地のエジンバラ・パークで東進、マリーフィールド・ラグビー場の脇をスコットランド鉄道の線路と並行し、ヘイマーケット鉄道駅に到着

する。都電荒川線に似て、ハイマーケット近くまで一般道路でなく専用軌道上を走行するので所要は20分くらいであった。

鉄道に乗り換えるならこの先のウェイバリ駅でなく、このハイマーケット駅のほうが便利である。ウェイバリ駅直近のトラム停留所はセントアンドルーズ・スクエア（スコットランド銀行前）で、ラゲージを引きずってウェイバリ駅まで5分ほど歩かなければならない。雨でも降ったら泣きたくない。ハイマーケットなら目の前に鉄道駅がある。



ハイ

文造

ハイマーケット駅のホール

された。旧駅の遺構は入口の壁のみ、規模は小さいがマカオの聖ポール天主堂のうしろに近代的なホールを増築したようなもの、といってもいい。きっぷ売り場、キオスクも広がった。いちばんの利便は全ホームにリフト、そして上り下りのエスカレータが設置されたことである。昨年まではリフト1基のみ、それよりも以前は階段だけであった。地図で見ると、ハイマーケットの先はウェストエンド・プリンシズ・ストリートで、停留所の北側にコート・クレッセントの道、つまりRSCDS本部がある。

空港－エジンバラ市内の連絡路線の一つとしてご利用されてはいかがだろうか。

セクレタリからのご報告

若松 陽子

*東京ランチではクレメント篤子さんと Brian Harry に AGM の Delegates (代議員) を依頼、HQ に提出しました。HQ から受領した旨の報告を受けました。Brian Harry からも東京ランチの AGM delegate に選出してもらえてうれしい、出来る限り協力したいと云うメールを頂きました。

AGM は 2014 年 11 月 8 日に Perth で開催されます。

*ハワイランチからのご案内

Annual Weekend of SCD in Hawaii 2015 年 2 月 13～15 日

全行程 170 \$ (RSCDS 会員、非会員)

問い合わせ先: Melissa Lindsay

MLindsay@hawaii.rr.com

*早々と2015年サマースクールの情報が届いています。オープンゴルフ開催のためいつもより遅めの開催となるそうです。

Week 1 26th July to 2nd August

Week 2 2nd August to 9th August

Week 3 9th August to 16th August

Week 4 16th August to 23rd August

*ミュージシャン・コースは Week 2 に行われます。

Dances to Song Tunes & CD

Castles in the Air (8x32S), Hey, Johnnie Cope (8x32R), John Grumlie (8x48J), Somebody (5x16S), Wee Cooper o' Fife (8x40J)など
ヒュー・フォスが1966年に出版したダンスブックとLPをRSCDSが復刻した。序文のフォス紹介が興味深いので以下に述べる。

「ヒューは神戸生まれで、父は大阪のイングラ
ンド国教会で主教にまでなった人物である。かれ
はマールボロ校（パブリック・スクール）とケン
ブリッジ大学のクライスツ・コレッジで学んだ。
1923年にかれの父は主教であったが、幼いころか
らヒューは日本語を勉強し、これが暗号解読者と
してのかれの経歴におおいに役立つことになった。

ヒューは官庁業務における数学者としての役割
をしばしば語っていたが、実のところかれはブレ
ッチリー・パーク（政府暗号傍受・解読センター。
最盛期1万人以上が従事）における暗号解読者の
1人で、日本海軍部門の責任者であった。1924年、
かれは英政府暗号学校（のちの政府情報本部GCHQ）
に加わり、1934年9月には在英日本大使館の海軍
駐在武官の暗号を解読していた。1940年5月8日、
かれはドイツ軍のエニグマ暗号解読に成功した。
かれはワシントンに派遣され、米海軍の暗号解読
者たちと共同で日本軍暗号の解読に従事した。か
れは暗号破りの天才として語られているが、すば
らしいユーモアをもつノッポ（180センチ以上）
で、ひとに寛大、ブレッチリーの仕事を終えると
キルト姿で自転車に乗り、地元のスコティッシ
ュ・カントリー・ダンスのクラスに向かった。ブ
レッチリー・パークでもかれはSCDのグループを
組織し、夏の天気の良い日は、クロッカー場の芝
生をつかって定常的にダンスしていた。

暗号解読の仕事を退職した後、かれは夫人のア

リソンとともに南スコットランドのダルリー町、
グレンダロッホ荘に引っ越した。この地でダンシ
ングについての文章を書き、ダンス・リーフレッ
トのグレンダロッホ・シリーズをスタートした。
リーフレットはたくさんの特ピックス、たとえば
ビル・アイアランドによる体操記事、名のある考
案者による新ダンス（ディレク・ヘインズの
MacDonald of the Isles、ジョン・ボウイ・ディ
クソンのThe Luckenbooth Broochなど）をカバー
していた。この時期、LPアルバムつきでかれ自身
による11冊のダンスブックを出版した。ダンス名
はこの地方の地名（Polharrowburnなど）にちな
むものが多い。かれはスコティッシュ・カントリ
ー・ダンスに多くの変革を行なった。もっと
もよく知られているものの1つに、フーガ形式の
ダンス（Fugal Fergusを含む）からなるThe
Waverley Fuguesの発行がある。かれの死後、ア
リソン夫人はHugh Foss (Formby)をつけることを
条件に、The Scottish Dance Archivesを含み版
権をフォーンビー在住のメミー・ドナルドMamie
Donaldに譲った。おそらくヒューのもっともポピ
ュラーなダンスThe Wee Cooper o' Fifeと、ヒ
ューの創作を駆り立てた楽譜をとり込んでRSCDS
がDances to Song Tunesを復刻するにあたって、
メミーは快諾してくれたのである」。

ダンスブック名のとおり、スコットランドでよ
く知られた曲にヒュー・フォスが踊りを振り付け
たものである。昔から踊っている人、たとえば稲
垣俊さん、菊池孝さん、小幡正明さん、島尻哲三
さんならブックとLPをお持ちのはずであるが、現
在これらは入手困難で、復刻版とCDがRSCDSによ
って出版されたのは喜ばしい。

フォスは上記紹介文にあるが、数学者・暗号解
読者で、しかもハイランド、カントリー・ダンシ

ング両方の名手であった。かれはみずから考えた動きは他のダンサーもできるとして、(ジョン・ドゥルーリやロイ・ゴールドリングとはことなり) 踊り試しをすることなく、そのまま出版した。またダンス説明書きは 1966 年当時のままであるため、解釈に難儀する踊りもある。ピーター・ホワイト編曲による楽譜つき。

2 枚組 CD はイアン・カスカート・バンドによるもので、音はシャープで輝きがあり演奏スピードも妥当である。LP 時代のピーター・ホワイト楽団の音を覚えている人には物足りないかもしれないが、ダンシングが楽しくなる演奏である。セイソ社録音にもかかわらず、この 2 枚組は音量も大きい。CD ケースは折たたみ式でなく、ブック式である。ムリにこじ開けようとするとやわなケースがこわれる。[注文略号：ソングチューンズ・ブックおよびソングチューンズ CD]

Happy Tartan & CD

Happy Tartan (8x32R), The White Dragon (8x32J), St Andrews Sea (8x32S), Chasing an Elf (6x40J), A Geometry Class/A Masquerade (3x32S), Sakura (64S+64R), A Renaissance Dance (8x32S), A Maze in the Mirror (3x32J), El Toreador (6x32S), Happy Tartan (5x32R)

近藤ゆう子さん自作のダンス集。アン・ディックスと、近藤さん活躍の場であるタータン・クラブ・メンバーに捧げられている。まともな動きのダンスと、他との違いを明らかにするため特異な動きを盛り込んだダンスの両方がある。率直に言えば、特異なダンスは 1 回踊れば十分であろう。RSCDS 標準用語である woman/women を使わずに lady/ladies を用いているのは意図するところが

あると思われる。ブックの装丁は優雅であり、記述体裁も立派、アンダーラインのまったくないところが気持ちよい (アンダーラインはわずらわしく、読み手に失礼である)。

CD は大竹奏^{かな}さん (ピアノとリコーダ) と笠間晶子さん (ピアノ) のデュオで、オリジナル・チューンは大竹さん作曲のものである。コンピュータ編集によるマルチレコーディングで、音量はそれほど大きくない。ブックと同じく優雅、繊細な演奏で、ダンスの動きにあわせて強弱をもっと付加すると、さらにダンシングの楽しみが増えると思う。曲は長調、短調にかかわらず導入部はもの静かである。

これだけのブック、CD を仕上げるのはなみ大抵の気持ちでできるわけではなく、見上げたものであり、入手して損はない。売上収益は UNHCR (国連難民高等弁務官事務所) 協会に寄付され、そのパンフレットがブックにはさみこまれるのでご承知願いたい。[注文略号：ハピータータン・セット]

* * *

ご注文は注文略号、数量、金額を明記のうえ、郵便振替 00240-0-63517 東京branchでお申し込みください (送料込み)。

ソングチューンズ・ブック	¥2,000
ソングチューンズ CD	¥4,000
ソングチューンズ・セット	¥5,800
ハピータータン・セット	¥1,800
ショップ担当 大野宏子	042-576-9587
h-oono@cam.hi-ho.ne.jp	
締切り	10月24日(金)
お渡し予定	11月末